



式典に参加する新成人の皆さん



二十歳の決意を述べる岩下さん



二十歳の決意を述べる高橋さん



式辞を述べる朝長市長



## 成人式典

1月12日、本市は令和2年成人式典をアルカスSASEBOで開催し、新成人の新しい門出を祝福しました。本年の式典のテーマは「**轍く明日へ**」。同年代の検討委員12人が企画・運営を行い、対象者2518人のうち約1750人の新成人が式典に出席しました。

二十歳の決意では、市立看護専門学校の高橋里奈さんと長崎国際大学2年の岩下新さんが登壇。高橋さんは「諦めずに努力して、患者の心と体に寄り添えるような思いやりのある看護師を目指したい」、岩下さんは「広い視野と関心を持ち、後輩の見本となるような社会人になりたい」とそれぞれ抱負を述べました。

また、式辞の中で朝長市長は「変化を恐れることなく挑戦し、自分の可能性を大いに広げ、思いやりと感謝の気持ち忘れずに、それぞれの未来を切り開いていただきたい」と激励の言葉を述べました。

開式前にはYOSAKOIチーム「佐世保よかよかっちえる隊」がお祝いの演舞を披露したほか、本市出身で俳優の若永徹也さんと歌手の前川清さんからビデオメッセージが送られました。

◎社会教育課 ☎24・1111



お祝いのYOSAKOI 演舞



開式・閉式のあいさつや司会などを行う検討委員でことし新成人の皆さん



注連縄に差し込むわら人形づくり



荒縄を締め上げて作る注連縄づくり



禊を行うヤモード



完成した大注連縄を神社から運び出す皆さん



注連縄をより合わせて大注連縄を作る両町の皆さん



鳥居に架けられた大注連縄



神社の鳥居に大注連縄を架け換える皆さん



## 佐世保のヤモード祭り

長崎県指定無形民俗文化財

1月26日、五穀豊穡と家内安全を祈願する収穫儀礼「ヤモード祭り」が松原町の湍姫神社で行われました。

江戸時代から続くといわれるこの祭りは、冬の間山の神として山に戻っていた田の神を里に迎える行事で、矢峰町と松原町から選ばれた青年・ヤモード（山人）が使者となり、祭りをつかさどります。

祭りの目玉となる大注連縄の架け換えは毎年行われており、長さ8m、重さ約300キロの注連縄を両町でそれぞれ作り、より合わせて作られます。

注連縄づくりが始まった頃、ヤモードは近くの山のため池で「**禊**」を行い、打ち鳴らされる太鼓の音とともに池に飛び込み、魂と体を清めました。また、禊の後は神の葉を口に加え、水に浸した米を石臼と石杵でついて「**糝**」を作り、神前に供えました。

約6時間をかけて完成した大注連縄は、神社から運び出され、鳥居の上にかかることを許されたヤモードと力を合わせ、鳥居に架け渡されました。

地域の人が見守る中、最後には神宮による御払いや餅まき、神社内での平戸神楽の奉納等が行われ、にぎわいとともに祭りは締めくくられました。

◎文化財課 ☎24・1111